



# 第69回 東北造形教育研究大会 秋田大会

## 第44回 秋田県造形教育研究大会 南ブロック大会

大会テーマ

みつめる めぐらす つくりだす ~ 未来につなぐ造形教育 ~

# 大会記録集

期日

2025.7.31 (木) - 8.1 (金)

会場

大仙市立大曲小学校、大仙市立大曲中学校、大曲市民会館、大曲交流センター

主催 東北造形教育連盟 秋田県造形教育研究会

後援 文部科学省 青森県教育委員会 岩手県教育委員会 山形県教育委員会 宮城県教育委員会 福島県教育委員会 秋田県教育委員会  
大仙市教育委員会 仙北市教育委員会 美郷町教育委員会 横手市教育委員会 湯沢市教育委員会 羽後町教育委員会 東成瀬村教育委員会  
秋田県小学校長会 秋田県中学校長会 秋田県PTA連合会 公益財団法人日本教育公務員弘済会秋田支部

令和7年度  
第69回 東北造形教育研究大会 秋田大会  
第44回 秋田県造形教育研究大会 南ブロック大会 大会記録集

目 次

● 閉会行事挨拶（謝辞）	.....	3
● 大会日程・会場	.....	4
● 大会風景	.....	8
● 分科会報告	.....	9
<b>【小学校】</b>		
①つないで つるして 大仙市立大川西根小学校 三浦 里子		
②「4松○○な木図かん」をつくろう！～見つけよう○○にぴったりな表し方～ 仙北市立角館小学校 三浦 ひかり		
③わたしの好きな花 どーれ？ 湯沢市立湯沢西小学校 山田 天衣		
<b>【中学校】</b>		
①南中美術発！私が見付けた横手の魅力！～季節を彩る文様（横手ノベルティグッズ作り）～ 横手市立横手南中学校 佐藤 潤		
②美術は地域を救う！？中仙美術館プロジェクト～新たな展覧会をプロデュースせよ～ 大仙市立中仙中学校 田中 真二郎		
● 大会実行委員会組織	.....	14

## 閉会行事挨拶（謝辞）

第69回 東北造形教育研究大会 秋田大会  
大会実行委員長 熊谷 留美子

### 謝 辞

R7.8.1

皆様、本大会にご参加いただき、誠にありがとうございました。  
大会実行委員長を務めました、大曲中学校の熊谷留美子です。

二日間にわたり、ここ大曲を舞台に、全国各地からお集まりいただいた、造形教育に情熱を注ぐ皆様と、豊かな時間を共有できましたことを、心より感謝申し上げます。

本大会では、「みつめる めぐらす つくりだす」をテーマに掲げ、昨日の県南3地区、湯沢市、横手市、大仙市、仙北市の授業者による5つの研究授業の提示、分科会、本日は、東北6県からの実践発表、小林調査官、平田調査官による講評・講話、作品展示と盛りだくさんの研修を通して、多角的な視点から、造形教育の今とこれからについて、考えを深めることができました。

皆様の熱心な発表や活発な意見交換は、秋田県の造形教育会員にとっても大変刺激的であり、明日からの教育実践への大きな力となりました。

特に、東北造形教育研究大会としては、久しぶりとなった、対面での授業公開では、やってみたいことを見付け、夢中になって表現する姿、自分の表現に真剣に向き合う姿、授業者や参加者の問い合わせに自分の表現を自分の言葉で語る姿、自分ができたこと自分の学びを価値付けている姿、などなど、子どもたちがキラキラと目を輝かせて学ぶ姿、教師も子どもも笑顔で学ぶ姿が見られました。そして、その姿を受け、どの分科会でも、白熱した協議が展開し、シートいっぱいに付箋が貼られ、各グループからよりよい学びに向けた提言がなされました。この学びが、東北の造形教育を更に発展させる原動力となると確信しております。

猛暑の中、夏休みの一日、初めて訪れた学校で、多くの参加者に囲まれながら、ときには子どもたちが参加者と混ざり合って活動するという、普段とはかけ離れた状況の中で、生き生きと学ぶ姿を見せた子どもたち、ここまで子どもたちを導いた先生に敬意を表します。

大会が盛会のうちに幕を閉じることができましたのも、講評・講話・発表いただいた先生方、運営にご協力いただいた関係者の皆様、そして何よりも、遠方よりお越しいただいた参加者の皆様のおかげです。心より御礼申し上げます。

また、準備段階から大会当日まで、献身的に支えてくれた県会長はじめ、実行委員、南ブロックの先輩方、造形会員にも、この場を借りて深く感謝いたします。皆様の強い思いと協力なくして、この大会の成功はありませんでした。

今回の大会で得られた学びや気付きを、それぞれの学校や地域に持ち帰り、子どもたちの豊かな感性や創造性を育む実践に生かしていただければ幸いです。造形教育が持つ無限の可能性を信じ、未来につなげていきましょう。

結びに、皆様の今後のご活躍と、東北の造形教育の更なる発展を祈念し、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

## 大会日程

7/31(木) 1日目

	12:30	13:00	14:00	15:00	16:00
大曲小学校	受付	研究授業 I 45	研究授業 III 45	分科会 I 60	
		研究授業 II 45		分科会 II 60	
				分科会 III 60	

	10:20	10:40	11:20			
大曲小学校	理事会役員受付	東北造形理事会 40		受付	研究授業 I 50	研究授業 II 50
					分科会 I 60	分科会 II 60

(1) 東北造形教育連盟理事会 10:40 ~ 11:20 大仙市立大曲小学校 応接室

(2) 研究授業

公開研究授業（小学校） 会場：大仙市立大曲小学校

- 研究授業 I・II 13:00 ~ 13:45
- 研究授業 III 14:00 ~ 14:45
- 分科会 I・II・III 15:00 ~ 16:00

授業	学年・領域	題材・授業者	指導者
研究授業 I	小2・造形あそび	「つないで つるして」 大仙市立大川西根小学校 三浦 里子	秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 田森 舞
研究授業 II	小4・表現	「『4松○○な木図かん』をつくろう！ ～見つけよう○○にぴったりな表し方～」 仙北市立角館小学校 三浦 ひかり	秋田県教育庁南教育事務所 雄勝出張所 指導主事 高橋 聖子
研究授業 III	小3・鑑賞	「わたしのすきな花 どーれ？」 湯沢市立湯沢西小学校 山田 天衣	秋田県総合教育センター 主任指導主事 小森 哉子

公開研究授業（中学校） 会場：大仙市立大曲中学校

- 研究授業 I 13:00 ~ 13:50
- 研究授業 II 14:20 ~ 15:10
- 分科会 I・II 15:25 ~ 16:25

授業	学年・領域	題材・授業者	指導者
研究授業 I	中3・表現	「南中美術発！私が見付けた横手の魅力！ ～季節を彩る文様（横手ノベルティグッズ作り）～」 横手市立横手南中学校 佐藤 潤	前秋田県造形教育研究会会長 元秋田県総合教育センター 指導主事 大野 一紀
研究授業 II	中2・鑑賞	「美術は地域を救う！？中仙美術館プロジェクト ～新たな展覧会をプロデュースせよ～」 大仙市立中仙中学校 田中 真二郎	秋田公立美術大学 美術学部美術学科 教授 尾澤 勇

8/1 (金) 2日目

	9:00	9:30	10:25	11:15	11:45	12:50	13:50	14:45	15:00
大曲市民会館 大ホール		実践発表① 協議 40	実践発表④ 協議 40	開会 行事 30	昼食 ・休憩	講評・講話 I 50	講評・講話 II 50	閉会 行事 30	
大曲市民会館 小ホール	受付	実践発表② 協議 40	実践発表⑤ 協議 40						
センター 大曲交流 講堂		実践発表③ 協議 40	実践発表⑥ 協議 40						

(1) 実践発表

○ 実践発表 (前半) ①・②・③ 9:30 ~ 10:10 / 実践発表 (後半) ④・⑤・⑥ 10:25 ~ 11:05

発表	会場	学年・領域	発表題目・発表者
前半	実践発表 ① 大曲市民会館 大ホール	小(低)・表現	「つなぐ思い 広がる感性」 ～喜びを感じる造形活動をめざして～ 岩手県 滝沢市立滝沢東小学校 吉田 宜子
	実践発表 ② 大曲市民会館 小ホール	小(中)・鑑賞	図画工作科の対話で深める鑑賞活動 ～福島県立美術館アートカード「ぼけっとアート」を活用して～ 福島県 伊達市立上保原小学校 鳥居 綾
	実践発表 ③ 大曲交流センター 講堂	中3・鑑賞	空間を彩る光の装飾 一小川三知のステンドグラス 青森県 青森市立浪岡中学校 赤田 麻絵
後半	実践発表 ④ 大曲市民会館 大ホール	小(中)・表現	「新聞紙をつなげて広げて楽しもう」の実践から ～協働的に学ぶ造形遊びの可能性～ 山形県 山形大学附属小学校 芦野 繁樹
	実践発表 ⑤ 大曲市民会館 小ホール	中3・表現	未来を創造する「自分」を探究する美術教育 ～抽象表現で出逢うホンモノの自分～ 宮城県 登米市立佐沼中学校 佐藤 英矢
	実践発表 ⑥ 大曲交流センター 講堂	中2・表現	表現と鑑賞を行き来しながら日本美術を味わう題材 「海を超えた文化交流～抽象水墨画に挑戦～」 秋田県 大館市立田代中学校 佐々木 亜希子

(2) 開会行事 11:15 ~ 11:45 大曲市民会館 大ホール

(3) 昼食・休憩 11:45 ~ 12:50 大曲交流センター

\* 昼食場所: 大曲交流センター講堂、中研修室、第1・第2研修室

\* 大曲交流センター講堂: 秋田県児童生徒美術展 作品展示

\* 大曲市民会館ホール: 企業ブース

(4) 講評・講話 12:50 ~ 14:40 大曲市民会館 大ホール

講評・講話 I 12:50 ~ 13:40 講師: 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 小林 恭代 氏  
講評・講話 II 13:50 ~ 14:40 講師: 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 平田 朝一 氏

(5) 閉会行事 14:45 ~ 15:00 大曲市民会館 大ホール

## 会場周辺図



## 大仙市立大曲小学校



## 大仙市立大曲中学校



## 大曲市民会館・大曲交流センター



## 大会風景



## つないで つるして 小学校 第2学年 造形あそび

### 授業者

大仙市立大川西根小学校 三浦 里子

### 指導・助言者

秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 田森 舞

### ● 授業者から ●

新聞紙を使った造形遊びでは、子どもたちは紙をちぎり、紙吹雪を楽しむことが多い。違う遊び方にも触れ、子どもたちの見方・考え方が広がってほしいと考えた。「細長い紙をつなぐ」ことを想定し、材料は新聞紙とした。前時の授業で、「たくさんつなぐ」「細く裂いてつなぐ」という活動ができた。その経験を思い出せるように映像や成果物を提示したが、「つなぐ」確認を実際にした方がよかったです。例えば、子どもから出てきた技法を皆で少し遊んでから活動を始めるなど、紙がつながって長くなるイメージをもって取り組むとよかったですと感じる。ただ、振り返りを見ると、どの子も面白い形を見付けたり自分の思った通りに技を使ったりできたということが感じられた。

### ● グループ協議 ●

【Aグループ】前時の成果を残した環境設定がすばらしかった。子どもの言葉を生かしためあての設定と、発見した技の名前付けが学びを高めていた。

先生の共感的な声かけや価値付けにより、子どもたちがとても魅力的に活動していた。1人で取り組む子どもへの声かけ、子どもの気付きを全体に広げる声かけ、また、めあてから逸れてしまった時の声かけの必要性を感じた。場に玉入れのリングが追加され、そこから新たつながりが生まれ、変化していったのがよかったです。

子どもたちがICTに慣れており有効に活用されていた。一方で、実際のものを見て共有する場面もあるとよいと感じた。振り返りでは、自分が好きなところの他に、友達のよさも共有できたのではないか。更に欲を言えば、前時のアイデアが今日の活動でどうなったか変化を交流し合うこともできると思った。とはいえ、限られた時間でこのように交流ができたのはすばらしかった。

【Bグループ】導入のビデオが効果的だった。短時間でもこれぐらい変わった、ということを見ることができ、意欲に繋がっていた。技の名前を子ども自身で付けたということが、意欲付けにも充実感にも繋がった。

めあての設定に難しさを感じた。指導案の段階では曖昧さがあった。子どもの言葉を生かすことで「…をくっつけよう」となったが、その言葉が意識されることで、活動の広がりが限定されたのではないか。「つるす」など他のイメージを意識できる導入や声かけの工夫があればよかったです。

教師の支援、共感的な声かけがよかったです。加えて、必要以上に手を出さず、「どうする?」というような問い合わせをしていたこともよかったです。子どもたちの活動が、例えば、クラゲはより大きく、最後は長さをそろえてつるすように変化していった。子どもたちが考え活動を深めた姿が印象的だった。

「あと〇分だよ。」といった見通しをもたせる声かけがあつてもよかったです。振り返りでは、タブレットだからこそ見える形や見方の発見があった。

【Cグループ】子どもたちの活動に合わせて紐やカゴを足すなどしていたが、子どもに任せてもよかったですのではないか。

映像や板書に、子どものよいつぶやきがたくさんあった。板書を授業中にもう一回見ると、つぶやきをより生かすことができたのではないか。

つなげたりつるしたりを重視するなら、それに合うような文言のめあてづくりが必要だ。

クラゲの頭を大きくしようとしている子どもたちが、それぞれ違うやり方をしていた。お互いの方法を見られるような声かけがあればよかったです。

【Dグループ】自分の学校ではない場所で子どもたちに少し遠慮が見られた。椅子や壁の使い方をいろいろ提示するなどして、より自由に活動できるようにしてよかったです。

途中で皆で遊ぶ場面を設けるとよかったです。友達の頑張りを共有し、自分の活動に生かせるものも得られたと思う。

材料の種類を少し増やし、色紙や紙テープで子どものイメージを広げるという仕掛けもあり得た。子どもたちはとても頑張っており、普段の関係性のよさが感じられた。

### ● 指導・助言 ●

形や色に関わり生活していることに50%以上の子どもたちが気付いていない。ぜひ先生方が授業の中でつないでほしい。

子どもたちは、創造という「自分の中から新しいものを生み出す」というとても難しいことを图画工作で行っている。造形あそびは、「つくり、つくりかえ、つくること」だが、今日の授業は子どもたちのそうした姿が見られた。これまでのしっかりとした指導が授業に出ていた。「この材料で何ができるかな?」ということに、子どもたちは夢中になって取り組んでいた。

「みつめる」…早送りの映像で前時の授業を視聴し、どんどん部屋が変わる様子から子どもたちが前時の活動を想起していた。もう手が動いている子もいた。子どもたちの発言から設定したためあては指導案と違ったが、活動をみんなで確認し見通しをもつことができた。この授業では技法を「技」と呼び、「うめん切り」「道切り」「山切り」そして「残し切り」という技が生まれた。子どもたちが名付けることによって特別に素敵なものになった。技の名前が振り返りにも登場し、子どもたちが自分たちのものにしていると感じられた。子どもたちが活動に夢中になってしまったを見越し、刃物の扱いなど安全面の指導がしっかりなされていた。

「めぐらす」…子どもたちは、活動開始後すぐに場所を見付け材料を集めて活動を始めた。

【児童①】周りの子のことを見て、他の子に「どうやってつくるの?」と聞き、その後の活動が展開していた。真似から発展する姿も大切にしたい。

【児童②】クラゲのふにやふにやしたところを表したいと一生懸命取り組んでいた。クラゲが大きくなるにつれて体全体を使って活動していた。その様子を先生も価値付け、その後の意欲的な活動につながっていた。

途中で玉入れのリングが出たことで、活動が再展開し始めた。場の設定の大切さを感じた。さらに紐が様々な方向に張られ、活動が発展した。

【児童③】かけた新聞紙を通り抜け、新聞紙を体感していた。かけた新聞紙を巻き、さらに新しい技を発見していた。この時、技を共有すると他の子どもたちの活動も変化した可能性がある。

【児童④⑤】形を楽しむ子どもが多い中で、広告紙を使い、色に気付いて取り組んでいた。

「つくりだす」…振り返りで、子どもたちはタブレット端末を活用し書き込んだり自分の気に入ったところを撮影したりした。子ども自身の目線で撮る写真には思いがしっかり表れる。いろいろ角度を変えてベストショットを試行錯誤しながら撮っていた。また、ICTにより子どもたちの成果を一覧で確認することが容易だった。

【児童③】「残し切り」を使ってジャンブルを作ったことが、振り返りで示されていた。写真を撮る時に立ったり下から撮ったり、試行錯誤していた。「かける技」と「巻きの技」で、紙を「干している」と説明していた。技を駆使したことが伝わってくる。技の名前を使っているところに、子どもたちの思いが乗っていることを感じた。

【児童④⑤】一緒に活動をしながら、それぞれの思いを表していた。全体は家のようだが、1人は、一部が雪の結晶に見えて素敵だと言っていた。もう1人は、家の形のうち屋根の部分を皆に説明していた。ICTにより、どの部分について話しているのか焦点化して示すことができた。さらに、実物を見てその部分を確認したり、「(すぐれた状態の)新聞をくぐる」楽しさといったことを体感し共有する方法も考えられる。ねらいや実態に応じて対応してほしい。

先生方には、今日の子どもたちのような笑顔に、これから授業でたくさん出会ってほしい。



## 『4松○○な木図かん』をつくろう！ ～見つけよう○○にぴったりな表し方～ 小学校 第4学年 表現

### 授業者

仙北市立角館小学校 三浦 ひかり

### 指導・助言者

秋田県教育庁南教育事務所雄勝出張所

指導主事 高橋 聖子

### ●授業者から●

学年を跨ぎ経験を積み重ねる表現活動を目指した。3年生で花をかいだ方法を生かし、4年生で木をかけるのではないかと考えた。また特別支援の経験から、みんなが分かって取り組める授業を意識した。子どもたちに緊張が見られた。自分がかきたいものに向き合いよく考えていたが、普段のように交流する場面は少なかった。ただ、題材のいろいろな場面で話合いをしており、今日は自分の製作を進めたい時間なのだろうと思い、見守った。次時で話合いにより表現が広がるようにしたい。

### ●グループ協議●

【Q1】全員が前を向いている座り方の意図

【A1】話の聞きやすさと、自分の表したいことに向き合ってほしいという思いで前を向く座り方とした。

【Q2】色画用紙など紙を選択させた意図とその方法

【A2】アイデアの段階でかなり表したいことが固まっていたため、工夫して画用紙の色も選べると子どもたちに伝えた。

【Aグループ】子どもたちに緊張した様子があったが交流もみられた。他教科との関連を踏まえた取組、準備や環境がすばらしかった。教師による子どもたちをつなぐ支援、活動の見取りの工夫で、交流や考えを広げられたのではないか。ICTの活用は有効であったが、画面と向かい合うだけ、となると違和感がある。アイデasketchにとらわれると表現が広がりにくい心配がある。

【Bグループ】他教科からのアプローチにより、子どもたちが題材と十分に触れ合うことができていた。教師の短い声かけが、時間確保や活動を見取る余裕を生んだ。また、子どもたちの自信になり活動への没頭につながった。ICTの活用により、前回と今回の作品を比べることができた。交流や会話を増やすには、自由に動きやすくなる手立てが必要だった。また、用具等の選択肢があるために個々に表現が違い、自分のことに没頭していったと思われる。短い時間で集中と交流の両立が難しかったところもある。

【Cグループ】子どもたちの「もっとかきたい」という思いが強く感じられた。アイデasketchやタブレットに今までの取組が蓄積されており、よかった。一方で、アイデasketchで思いが完結してしまった子もいたかもしれない。作品を見合う場面は、必要感や視点の明確化が課題だと感じる。交流を活発にするには、グループにするよさもあったのではないか。あえて違う考えの子どもたちを集めることも面白いと思う。周りを見られる環境の準備が個別最適化につながる。振り返りで、前の作品との違いを皆で確認できとてもよかった。時間があれば、途中で振り返りを行い、それを生かして再度製作に取り組むという方法も有効だったかもしれない。

【Dグループ】木に触れたことを通して、思いや表したいイメージを子どもたちがしっかりともっていた。環境や用具が整っており、自分の思いに合った表現を選べた。一方で、技法を理解して使っていたか、様々な表現のどれをよいとするか疑問に思った。色を混色し、お気に入りの色を残すための卵パックの活用が目を引いた。導入でしっかりと見通しをもったことで、振り返りでも視点が明確だった。前時と絵を比較するタブレットの活用法が参考になった。

【Eグループ】観察により木を五感で深く理解しているため、構想シートが充実していた。表現したいことが明確にあった上で、様々な技法、用具が準備されていたことから表現の多様性が生まれた。かきながら友達の作品を見たり作品を飾って見たりできることが「表現と鑑賞の往還」という研究の重点に沿っていた。交流する習慣が根付くことが、躊躇している子には支援になる。ICTの活用により前時と本時の作品を比較できたことで、「自己の変容」を子どもが自覚でき、自信をもてる活動につながっていた。

### ●指導・助言●

「木」は地域柄、子どもたちにとってとても身近なモチーフだ。そうした木を改めて見つめ表すことで、これまで以上に彼らの生活と関わり豊かにしてい

く。图画工作の目標につながっていくと感じた。

「みつめる」…題材名から、学ぶ内容が分かりやすく伝わる。「木をかく」、さらに「表したいこと・ぴったりな表し方を考える」ことが示されている。また、授業で題材全体の流れが示されていた。先生が構想した内容や流れを子どもたちと共有することは大切だ。子どもたちが見通しをもち活動を進めた結果、「今日はかくことに集中したい」子どもが多かったのだろう。また、子どもたちが自ら何を表すかを考えることも大事だ。そのため、「○○な木」と示したことには意味があり、様々な手立ても提示していた。他教科との関連を含め多様な視点で考えることができたためか、子どもたちの木に同じものは一つもなかった。いろんな考えがあっていい、という先生の思いが浸透していた。

【児童①】優しい木にしたいからスponジを使うと話し、自分の感情や願いを表現につなげようとしていた。

【児童たち】冒頭の鑑賞で話し合っている様子は、思いや表現の方向性を他者と比較し、対話を通して深めようとする姿だった。

「めぐらす」…子どもたちは表したい木の感じに合わせて、材料、色や形、筆遣いなどを工夫していた。

【児童②】力強い感じにすることをダンボールを使用。素材の特性を理解し、思いに合わせ、選択していた。

【児童③】優しい感じをスッとした表し方にしたいと筆運びを工夫していた。

【児童④】緑にこだわって表していた。台紙も緑にし、同じ緑にならないようにクレヨンを押し当てるなど表現を追求していた。

個々の思いの表現が叶えられる道具置き場が用意されていた。国語の「アップルーズ」という学習との関連か、子どもたちは自分たちの作品を近くで見たり離れて見たりしていた。

「つくりだす」…自分の表現をどう捉え意味付けるかが大切だ。

【児童⑤】振り返りで、にじみや吹き流しなどで表すことができたと話した。自分の表現を材料や技法の特性と結び付けていた。

【児童⑥】前時の絵と比べ、「木の本数を増やしたら、自然が豊かになった」と言っていた。自分の表現に価値を生み出す姿勢が伺えた。

例えば、「思いと合っていたかな？」と問い合わせ、自己評価の視点をもたせるとも学びを次に繋げる鍵になる。タブレットで記録し前時の取組がすぐに見られるのはICTのよさだ。学年や発達段階など実態に応じて使ってほしい。

また、感想を伝え合う場面があると、更に表現に対する多様な価値付けが生まれ、学びが豊かになる。題材全体の効果的な部分で設定できればよい。「みつめる めぐらす つくりだす」の視点が、学習活動や教師の支援によって丁寧に組み込まれていた。3年生で見方・表し方を身に付けた子どもたちが、更に様々な表現に挑戦し生き生きと活動していた。作年、自教室でパッと意見を言い合っていた様子を鑑みると、緊張もあったと思うが、「今日はかいていて見せるの」などという意気込みも感じた。学年が上がり、一人一人の表したいことがさらに明確になっていた。「瘦せてそうな木」を表していた子どもは、アイデアに「木を触った時に細くてびっくりした」とあり、「想像以上に細かった」ことを表したいのだと分かった。思いを知っているからこそ、先生は、助言ではなく見守っていたのだろうと思う。作品だけでなく子どもの考える過程を見ることが大事だと改めて感じた。

今回の取組は、他教科との関連や昨年からの系統性をもって計画されており、資質能力の育成に関わり大変効果的であった。今後、子どもたちが自分の表現に誇りをもち自信を深めることができるような支援が加えられると、更に学びの質が高まっていくだろう。先生の日々の実践に敬意を表すとともに、今後の研究の更なる発展に期待している。



## わたしの好きな花 どれ？

### 小学校 第3学年 鑑賞

#### ● 授業者から ●

表現に生きる鑑賞の授業を目指し、「好きな花をかく」題材につなげる授業を構想した。子どもが「私はこういうのが好き」という思いを蓄積していくことで、自分を表せるようになるのではないかと考え、朝の会で図工の教科書のアートカードを用いて、「こういうのが好き」を出し合う活動を積み重ねてきた。活動で出てきた言葉をロイロノート(学習支援ソフト)に書き留めており、今回、キーワードとして会場に掲示した。この取組により子どもたちの感想の語彙が増えてきた。今日は子どもたちの言葉を引き出し切れなかったが、時間があれば「好き」の理由に語彙を活用できたと思う。鑑賞方法として対話型鑑賞を選んだが、子どもたちはまだ対話型鑑賞に慣れておらず、もう少し少人数のグループが適当だった。アートカードの活動を継続していく中で、「他の作品をかくときにアートカードを参考にしたい」「もっと作品を見たいから初めて美術館に足を運んだ」という子どもの声があった。活動の成果は少しづつ出ていると感じる。

#### ● グループ協議 ●

【Q1】帯の時間で図工に関する実践をしていることがすばらしい。絵に対して、子どもたちが「ゴッホだ」「ムンクだ」と言っていたことに驚いた。この3点の絵を鑑賞対象に選んだ意図を教えてほしい。

【A1】枯れたひまわりと鮮やかなひまわりの対比等、バランスがいいと感じ、数あるゴッホのひまわりの中から選んだ。

【Q2】鑑賞で、これほど授業が盛り上ることにびっくりした。会場に子どもの鑑賞の視点(キーワード)が貼ってあり、これまでの積み重ねを感じた。3つの絵は、それぞれ違う視点で見ることができる絵だと感じた。「構図」「色の対比」「技法」「時代」の視点を子どもが見付けた。形・色・イメージを同列に扱ったのはなぜか。

【A2】本来は、形・色があった上でのイメージだと思っている。言葉をたくさん出して比べることを目的にしたいと思い、あえて形・色・イメージを並べた。

【Q3】先生がコーディネートするために一斉の活動にしたのか。

【A3】1回目の鑑賞をグループでやってみたが、意見をばつばつと発表して終わっていた。コーディネートした方が多くの意見を引き出せると考えた。もう少し子どもたちに力が付いてきたらグループで進めてみたい。

【Aグループ】教師の問いかけの数やタイミングが絶妙だった。

子どもの発言を先生が簡潔にまとめて、ねらいにたどり着かせていた。子どもたちからたくさんの考えを引き出し掘り下げていた。「どこを見てそう思ったの」と問いかけたことで、考えが具体的になった。普段の取り組みで鍛えられているからこそ、できたと思う。

絵の全体から細部を意識させる発問で鑑賞が深まった。「ひまわり以外にもいろんな物がかかっているよ。」の言葉がけで、細部に意識が向いた。

「いいなと思ったところ、新たに発見できたところ」について振り返るように話したことが、子どもの「新たな発見」への意識を高めた。

発表が苦手な子と得意な子でグループワークにすると、もっと思いが広がる可能性があった。

作者の情報を教えると、作者の心情に触れる言葉が出た経験がある。一方で、例えば、「怒っていたからこういう色を使ったんじゃない？」など、ねらいから逸れる可能性もある。

思いを言語化するまでのステップがよかったです。最初に理由等を抜きにして好きな絵を選んだ。それが言葉で考える取っ掛かりになった。

【Bグループ】作品との出合わせ方がよかったです。3つの絵を最後まで授業会場に出しておき、作品を見ながら話し合うことができたと思った。

グループの話し合いであれば、全体の場でなかなか意見を言えない子どもも、自分の思ったことを声に出せたのではないか。

交流を通して次第に思いが言語化されていった。子どもから出た言葉を大事にしながら進められたらしい。加えて、先生が新たなワードを提示したこと、子どもたちが言葉を理解・活用し、思いを言語化できたのではないか。

#### 授業者

湯沢市立湯沢西小学校 山田 天衣

#### 指導・助言者

秋田県総合教育センター 主任指導主事 小森 哉子

#### ● 指導・助言 ●

子どもたちに話す力があり、よく育っていると感じた。指導案から、「造形的な視点を豊かにしたい」「思いに合わせて工夫し製作できる、次につながる鑑賞にしたい」という先生の思いが強く伝わってきた。独立した鑑賞でありつつ、今後の表現活動につながる活動として位置付けられており、題材の配列、取組が参考になる。

「みつめる」…3つの作品の布を1つずつとった時の歓声、この導入により子どもたちの興味や関心が高まった。改めて題材との出会いが大事だと思った。3作品のうち自分の「好き」を選ぶ鑑賞活動が、学年の実態に合っていた。ICTの活用で子どもたちが「好き」と選んだ作品がモニターで一目で分かりやすかった。

「めぐらす」…交流の場面で先生が上手にコーディネートしていた。アートカードの活動で集めた子どもたちの言葉を掲示したことが、交流を円滑にする手立ての一つになった。また、子どもから話を引き出し、気付いてほしいところを先生が取り上げて話すという、子どもたちに気付かせる支援があった。さらに掘り下げて話を引き出すことができたと思うが、先生の話しが子どもと一緒に考えているような自然さで無理がなかった。子どもたちが気付かなかった点について先生が話したこと、絵の中に描かれた虫を懸命に探し始めた子どもがいた。気付きを得て最初とは別の絵が好きになった子どももあり、交流することで考えが広がり深まる姿が見られた。ICTの画像を拡大できる利点により、一人一人が手元でじっくりと鑑賞することができた。今まで集めた言葉を子どもたちが自分のものにし、様々な考えを話しており印象的だった。日常的な積み重ねは大事だと感じた。

「つくりだす」…再度好きな作品を選ぶ活動では、交流した成果が表れていた。「○○さんの話を聞いて(好きな絵が)変わった」「意味が分かって考えが変わった」と書いた子どもがいた。見方や感じ方が広がったのだと感じた。選んだ絵は同じでも新たな見方ができたという子どもも多かった。振り返りでは、「どれもよかったですけれど、意味を聞いてこっちにしたよ」「AだったけれどBもいい」など、子どもの気付きが表れていた。先生が目指した子どもたちの姿がたくさん見られた。今後の花を描く授業で、今日の充実した活動が思い出され、多様な表現や工夫がある作品が生まれるだろうと強く思う。

交流や話し合いの方法について話題になったが、先生方それぞれが実践を重ね、成果について交流してほしい。よりよい方法を共有していくは鑑賞の授業は充実する。「事前のグループの交流がうまくいかなかった。」とあつたように、子どもたちだけでは話が停滞し深まらないことがよくある。今日は先生のコーディネートが効果的だった。一方、交流の時間が十分にあり、子どもたちに委ねる時間も取れたかもしれない。子どもたちの実態から、様々な方法を先生方で考えていくべきだ。3つの絵を見る方法も、絵の近くまで行って見たり、ICTで手元で拡大して見たり、子どもに委ねれば、「もう少し話をさせたかった」子どもたちも自分なりの活動ができる可能性はある。なかなか話せない子どもを見取り、先生がついて対話するなど活躍できる場面づくりを考えたい。鑑賞の充実が表現の豊かさにつながる。「見る」ことを通して見方・考え方を豊かにし、表現力を高めることにつなげてほしい。

今回の実践では、日常的に様々な場面で子どもたちを造形的な視点に気付かせ、言葉を集めた。日常や身近なところで造形的な視点を意識することで、子どもたちの造形的な力が豊かになり、他教科等との関連につながり、図工が生活に生きる時間になる。調査官と、「図工や美術の授業が生活に役立つ」と思っている児童生徒の割合が低いのは、「当たり前に身の周りにあって気付かないだけ」「職業とつなげて考えるから低くなるのでは」という話をした。先生方には、図工、美術を通して「生活の中で学んだことが生きている」と、子どもたちに気付かせてほしい。図工、美術は楽しく、子どもたちのためになる教科だということを大事にして授業をしてほしい。



**南中美術発！私が見付けた横手の魅力！**  
**～季節を彩る文様（横手ノベルティグッズ作り）～**  
**中学校 第3学年 表現**

**授業者**

授業者：横手市立横手南中学校 佐藤 潤  
 指導・助言者  
 前秋田県造形教育研究会会長  
 元秋田県総合教育センター 指導主事 大野 一紀

● 授業者から ●

「文様」は1年生で扱う内容だが、地域の魅力を発信する題材として3年生で取り組んだ。デジタルのメリットである、作業を行きつ戻りつできる気軽さと、思考を形にする容易さを活かすため、ICTでの制作とした。大事にしたことは主題設定である。最初は発想を広げるために“9マス表”を用い、横手の魅力を探し、表したい季節のモチーフを見付けた。その後、イメージをより表現したいものに近付けるために“熊手チャート”を使い、思考を深めた。本時の最初に互いの作品を見合い、制作のヒントを探す時間を設けた。直接作品を見て説明し合い学び合う活動にしたかったが、掲示した他学級の作品からヒントを見いだした生徒は、制作者との対話ができなかった。制作では、事前に他学級の生徒が付箋に書いたアドバイスから、「自分の思いが伝わっていないんだな」と気付いたり、「主題に近付けるためにどうしたらいいか」というヒントを得たりして、色や形などを工夫し追求している姿が見られ、成長を感じた。振り返りでは、前時と本時の作品を並べ、変容を確かめられるようにしている。全体として自分の主題に近付こうとしている姿が見られた。

● グループ協議 ●

【Q1】授業の中で「文様」の概念をどのように捉えて取り組んだのか。また、1年生の段階で「文様」の授業をしているのか。

【A1】1時間目に、教科書に掲載されている日本の文様を鑑賞した。また、様々な文様を調べ、自分たちで特徴を見付け共有した。その内容を会場に掲示していたが、「シンプル(色・形)」「連続・繰り返し」「回転・対象・平行」「規則的な並び」「自然界の事象・生物を線や図形で構成」といったキーワードは生徒たちから出てきた。1年生の段階で、美術で「文様」は扱っていないが、家庭科の授業で「文様」について触れており、学んだことを想起するようにしながら取り組んだ。

【Q2】主題設定がとても魅力的で、より具体的な主題が3年生らしくてよかった。“9マス表”について教えてほしい。

【A2】「横手の四季」を共通テーマとして、「風景」か「食」のどちらかをさらに選ぶように提示した。例えば「冬・風景」と選んだら“9マス表”に思いつく限りキーワードを書いていく。そこから、例えば「かまくら」と個人テーマを決めたら“熊手チャート”で「いつ」の、「どこ」にあるかまくらなのか等、詳しく考えていくことでイメージを深めた。

【Q3】色の効果についての学習はどのように扱ったのか。

【A3】色についての学習は1年生で行っている。色相環などに触れているが、基本的な内容について押さえる学習であった。

【Q4】ノベルティグッズの捉えは？誰に向けて作ったのか。

【A4】生徒たちに、横手の魅力を誰に向けて発信したらよいかと聞くと「観光客」と答えた。だが、改めて考えてみると、自分たちも横手の魅力について知らないことに気付き、「地元の人に再認識してもらう」のもよいのではないかという意見も出た。ノベルティグッズとは、無料で配布でき認知度を高められるものという定義で、生徒たちからどのようなグッズが考えられるかアイデアを出してもらった。それらが会場の一画に展示していたサンプル品である。グッズをどこで配布するかも生徒たちがアイデアを出して進めている。

● 指導・助言 ●

「改善を要する視点」、言わば批判的な意見もあることによって自分の考えが明確になり、次につながっていく。生徒に、「アドバイス付箋に批判的なことが書かれていると、どう思うか」尋ねてみた。すると「最初はイラッとするが、よくよく考えてみると、やっぱりそうだなと納得できる点もある。」と答えた。そういう経験が大切だと思う。今日、様々な先生方の視点で捉えた子どもたちの姿を共有し合えることに東北大会の意義を感じる。

授業前、先生が満面の笑みで生徒を出迎え、授業も笑顔で始まった。先生が難しい顔で緊張していたら、生徒にとって授業が楽しいものにはなり得ない。“笑顔”がいかに大切かを改めて感じた。

本題材の肝は「主題の生成」であった。これがしっかりしていると生徒たちは題材に深く入り込める。以前、先生が同じ題材で取り組んだときは、主題設定が甘かったとのこと。同じような主題の作品が幾つも出た。今回、より具体的に自分の主題、自分だけのもの、自分だけが感じるよさにしていくために“9マス表”と“熊手チャート”を使ったということだったので、是非活用してみてほしい。

制作に使用したiPadのキーノートは、扱い慣れている生徒も苦手な生徒もいたと思われる。それでも一生懸命取り組んでいく中で、いろいろな学びが生まれてきたことが分かる。ICTの活用にためらわず、どんどん発信し、取り入れていくべきだ。パワーポイントの方が扱いやすいと思ったが、ある程度制限があるのもよかったのだと思う。表したいことがあれば、制限の中で尚更よく考えて工夫が生まれ、力が付くことがあると感じた。また、ICTは思考の変容や形の変化を目の当たりにできる。さらに、造形的な視点だけで伝え合えるよさもある。

今後について提案するなら、ノベルティグッズを配布する場に文様の主題が分かる工夫があるとよい。主題と合わせて作品を見ると、見た者もより深く作者の思いを受け止められる。例えば、二次元コードで学校HPにアクセスし文様の主題が分かるようにすると、クイズのようで面白いのではないか。地域とのつながりもできる。地域の声としてグッズに対する反応が届くと、子どもたちにとって頑張りが認められる喜びになり、美術のよさが広がっていくことになるだろう。新聞社が取り上げてくれたりすると、社会とつながりながら自分たちの活動の意義と、美術の楽しさを実感できるのではないか。

指導上ですばらしかったのは、「爽やかな風」というテーマの作品に対しての対応。子どもたち同士で辛辣な意見も出ていた。そこに先生は、「いつ頃の風なのかな。」という言葉をかけている。「こうしたら？」という言葉でなく、生徒の気持ちを汲んでちょっとヒントになるようなことを伝えていた。美術の先生のよさは、思いを幅広く受容し、「いろんな答えがあってもいいんだ。」と考えられるような言葉をかけられることだと再確認した。とある店の店員が、「美術の先生って好きだったんですね。いろいろ話をしたときに否定をせずにちゃんと聞いてくれるから。」と言っていた。多様な考えを受け止める教師の幅の広さが、今日の授業の中にも見られたと思う。



美術は地域を救う！？中仙美術館プロジェクト  
～新たな展覧会をプロデュースせよ～

中学校 第2学年 鑑賞

授業者

大仙市立中仙中学校 田中 真二朗

指導・助言者

秋田公立美術大学美術学部美術学科教授

尾澤 勇

●授業者から●

全国的に課題になっている共通事項(2)「森を見る視点」をいかに実感的に子どもたちが理解できるようにするかを重視した。カードゲーム形式については、他クラスで授業を行い肯定的な反応があり採用した。課題は、カードが多すぎたこと、他の人が出したカードを生徒が捨てられなかつた(ために作品を絞れなかつた)ことだ。助言を受けて次に生かしたい。他の先生にも実践していただき、共有して子どもたちに返していきたい。

●グループ協議●

【Q1】生徒は展覧会テーマを先に決めてから10作品を選んでいたが、「地域課題を解決」という点について、生徒はどのように理解していたのか。

【A1】最初に地域の課題を洗い出した。しかし、あまり内容が深まらず、少子高齢化などの課題は今回の取組で解決を目指すことは難しいと考えた。そこで、美術館を通して地域の人に喜んでもらうには?という課題にした。

【Q2】振り返りでAIと対話している生徒がいた。AIは振り返りのまとめにどのような役割を果たしていたのか。

【A2】振り返りの設定がよくないと浅い内容になることが教師側の課題だ。AIのプロンプトをつくって生徒に公開することで、振り返りを深堀するための問い合わせをAIが担ってくれる。単元の振り返りでAIを活用するといと考へている。このようにAIを活用することで、俯瞰して考へをまとめることができる。本校では数学や体育などの他教科でも授業のまとめに活用している。群馬県でも美術の授業でAIを活用し、AIと対話していくことで発想を広げていくという実践例がある。

【Q3】立体や平面、近現代の作品などバラエティに富んだ作品選定がされていたが、どのような指導があったのか。

【A3】事前学習として秋田県立近代美術館を訪問し、美術館の裏側や展示方法、展覧会のつくり方のレクチャーを受けた。実際に近代美術館の展覧会を鑑賞し、展覧会のつくり方を理解した。バリエーションについては特に指導していないので、生徒たちがテーマに合った作品を自分たちなりに選んだ結果だと思う。

【Q4】AIを教育の中に取り入れる時、否定的な声やデメリットが挙がるが、AIを教育で活用していく上で、どのような点を押さえたほうがよいと考えているか。

【A4】本校はコパイロットを使用している。生徒たちが2年生のとき、美術で生成AIを使用した。生徒たちはプロンプトの入力に苦戦してうまくAIを活用できない経験を通し、AIを使う難しさを実感した。今回は作品探しにAIを活用したが、AIが提示する情報には誤情報が多く含まれている。生徒が作成したカードにも誤情報が含まれていたかもしれない。授業の中でも「その情報は本当か」と生徒に問いかげ、Google Arts & Cultureで情報を照らし合わせ、真偽を確かめながら活動を進めた。これは美術の授業だけの話ではなく、今後AIを活用していく上のメリット・デメリットと考え、押さえている。

【Mグループ】この展覧会は誰に見もらいたいのか?が気になった。「生きづらさ」がテーマの展覧会は人が集まるのか。キース・ヘリングの作品は地域のお年寄りに見もらえるのか。相手意識に課題を感じた。また最終的に、どうまとめしていくのか。

授業者から…最終的にバーチャル展示をして、お互いに鑑賞しあう。展覧会パンフレットを作成し、展覧会の関連イベントや作品リストなども作成して、校内でのみ公開する予定。

【Oグループ】「みつめる」の場面で、生徒の生活に身近な遊びからゲーム形式にしたこと、作品について調べてカードにしたこと、そこから展覧会テーマにつなげるところまでが自然な流れだった。いろいろな仕掛けが主体的な遊びにつながっていた。「めぐらす」の場面で、10枚に絞るのが難しい班も多か

った。向かい合わせではカードが見づらく、ピラミッド型に並べるなどもよかつたのでは。オークションのことも学んだとのことだったので、海外の作品をもってぐるための費用は、予算は…などの学びも展開できそうだ。

【Jグループ】テーマに合わせて作品を絞る過程で、教師の的確な声かけで生徒の活動が活発になっていた。優しい子どもたちが(皆が選んだ作品から)作品数を絞る決断をできずにいたので、迷った時のルールを決めておくと安心して活動を深めていけると思う。これまでの美術館について学習したことを想起させる声かけがあつてもよかったです。

授業者から…子どもたちの中に蓄積があったと思い、あえて声かけはしなかった。

●指導・助言●

授業構想としては、鑑賞授業での学びを保障すること、生徒が共通事項の(2)「森を見る視点」を感じ取ることが重点であった。

メタバースキンシップなどの体験、展覧会をつくっていく過程や裏側について学び、地域を見据えた美術館のために子どもたちが調べ、テーマを設定して選んでいくものだった。子どもたちの価値意識、対話をしながら価値観を闡わせて、協働しながら学びを深めていく題材だった。

授業の最初で「作品の雰囲気」や「暗い」などのキーワードが出されていたが、「森を見る視点」について授業の中でダイレクトに見えてきたか、などと、今後の授業で更に触れられていくと思われる。生徒が作品についてこだわりをもって選ぶ過程で自分自身を深掘りして、「地域の中の自分」「地域のよさ」について考える機会になっていた。

美術館に行ったことのない生徒は多い。今回の学習が、自分のこだわりをもって美術作品を見たり、表現するだけでなく更に美術が好きになったり、友達の価値意識を感じ取ったりする機会になった。そうした中で協働しながら学びを深めていける授業だった。生徒の人生観にも関わる深いテーマ設定での話合いがされていた。

コンセプト寄りのテーマが多かったが、造形とコンセプトは両方相まって分離できないものである。コンセプトについて考えることで、作品から感じ取ったことや考えたこと、自分の価値意識を深めていくことにつなげていけたのではないか。

今回の授業は他教科との協働で取り組める題材である。地域の美術館とも連携することができ、学校の外に開かれた活動として、生徒にとって非常に貴重な機会となった。

中学校を卒業すると美術を学ぶ機会がないという生徒も出てくる。社会の中で美術文化と豊かに関わっていくという観点では、今回の授業は重要な役割を果たしていた。生徒と一緒につくっていく授業であったし、これからも生徒に学びながら授業づくりをしていきたいものだ。また、AIを取り入れた授業展開にするなど、参観者に対して情報提供の多い取組だった。

全体計画を通してしっかりと取り組んでいる様子を見せていただいた。



## 大会実行委員会組織

### 大会実行委員会

大会会長	黒沢 淳（日新小）	大会実行委員長	熊谷留美子（大曲中） 幹事長 滋谷 千里（美郷中） 幹事 佐藤裕理子（羽後中） 佐藤 好一（西仙北中） 会計 富田 文絵（御所野学院中） 高橋真理子（湯沢北中）	
大会副実行委員長	三浦 直樹（山王中） 松田 清悦（河辺中） 菊地 邦彦（東由利中） 豊島 寿（三輪小） 菅原 靖（角間川小） 美濃 俊幸（十文字中）		事務局	
県事務局	総務部	運営部	研究部	事業部
◎黒沢 淳（日新小） 佐藤裕理子（羽後中） 富田 文絵（御所野学院中）	◎熊谷留美子（大曲中） ○三浦 直樹（山王中） ○菅原 靖（角間川小） 滋谷 千里（美郷中） 高橋真理子（湯沢北中）	◎豊島 寿（三輪小） ○松田 清悦（河辺中） ○鈴木 陽（雄勝小）	◎佐藤 智美（東大曲小） ○永田 縁（南外小） ○沼田 桃子（第一中）	◎美濃 俊幸（十文字中） ○柴田 紗子（増田中）

運営部			
	役職	氏名	所属
統括	運営部長	豊島 寿	三輪小
	副運営部長	松田 清悦	河辺中
	副運営部長	菊地 邦彦	東由利中
	副運営部長	鈴木 陽	雄勝小
広報		小野 裕子	高瀬小
		阿部 寿範	湯沢西小
		佐藤 靖子	湯沢西小
		長雄 清美	稻川小
		藤原 和彦	雄勝小
		柴田さゆり	雄勝小
		佐藤 紗子	三輪小
		井上 晴子	羽後明成小
		高橋 香理	湯沢南中
		小原真祈子	稻川中
		長雄 義明	雄勝中
		斎藤佳奈子	東成瀬中
		菅原 久実	大曲中
		池野 吉洋	大曲中
	救護	古村 香	大曲中
		(佐藤 好一)	西仙北中
		田中 武晴	協和中
		渡部 直子	太田中
		(高橋 涼)	生保内中
会場運営		佐藤 文明	神代中
		須藤 美佳	大曲小
		佐々木貴子	大曲小
		松本 智子	大曲小
	救護	堀内 祐子	大曲小
		藤村 邋花	中仙小
		小泉 水季	旭川小
		三浦 泰輔	大住小
		秋山 流華	大住小
		横山 昂矢	外旭川中
		櫻田麻莉絵	泉中
		東海林寿人	御野場中
		田所 史世	本荘北中
		赤川 祐輝	矢島中
		佐々木真樹	岩城中
		高橋 聖香	西目中
		須田 秀二	仁賀保中

研究部			
	役職	氏名	所属
統括	研究部長	佐藤 智美	東大曲小
	副研究部長	永田 縁	南外小
	副研究部長	沼田 桃子	第一中
	研究推進班長	佐藤 智美	東大曲小
授業研究	授業研究班長	永田 縁	南外小
	授業者	三浦 里子	大川西根小
	授業責任者	菅原 靖	角間川小
	小I 司会者	佐藤 康規	大曲小
	記録者	鈴木 政憲	角館小
	授業者	三浦ひかり	角館小
	授業責任者	永田 縁	南外小
	小II 司会者	築 容子	太田南小
	記録者	吉田多美子	千畠小
	授業者	山田 天衣	湯沢西小
	授業責任者	池田 亜紀	湯沢東小
	小III 司会者	佐藤 靖子	湯沢西小
	記録者	藤原 和彦	雄勝小
	授業者	佐藤 潤	横手南中
	授業責任者	佐藤 朋子	平鹿中
	中I 司会者	柴田 紗子	増田中
実践発表	記録者	柴田 紗子	増田中
	授業者	田中真二朗	中仙中
	授業責任者	新目麻衣子	角館中
	中II 司会者	武田 淳子	仙北中
	記録者	小林 翔子	大曲南中
	実践発表班長	沼田 桃子	第一中
	発表者①	吉田 宜子	淹沢東小
	発表者④	芦野 繁樹	山形大附属小
	責任者	菊地有希子	日新小
	司会者	横山雄一郎	雄和小
	記録者	小林さおり	雄和中
	発表者②	鳥居 紗	上保原小
	発表者⑤	佐藤 英矢	佐沼中
	責任者	中尾 裕子	山王中
	司会者	小柳紀恵子	桜中
	記録者	佐々木 恵	高清水小
	発表者③	赤田 麻絵	浪岡中
	発表者⑥	佐々木亜希子	田代中
	責任者	関口 琢也	院内小
	司会者	山下 奈知	本荘南中
	記録者	宮田 幸江	尾崎小

事業部			
	役職	氏名	所属
統括	事業部長	美濃 俊幸	十文字中
	副事業部長	柴田 紗子	増田中
	編集班長	高橋 輝樹	横手明峰中
	展示班長	原田 大輔	横手北中
編集・作品展	吉沢 理	横手南中	
		(佐藤 潤)	横手南中
		佐藤 朋子	平鹿中
		黒政 東彦	朝倉小
		古屋 佳子	栄小
		笹木 薫	栄小
		武内美保子	浅舞小
		千田 圭子	十文字小
		佐藤 好一	西仙北中
		高橋 涼	生保内中





The 69th Tohoku Art Education  
Research Conference In Akita



令和7年度 第69回 東北造形教育研究大会 秋田大会  
第44回 秋田県造形教育研究大会 南ブロック大会  
2026年1月15日 発行 発行者：東北造形教育研究大会秋田大会実行委員会



秋田県造形教育研究会